

学科名	建築・デザイン学科							
科目名	建築設計Ⅱ							
科目区分	専門科目	単位数	3単位	開講時期	2年次後期			
必修・選択の別	必修科目(建築工学コース)／必修科目(建築コース)／選択科目(デザインコース)							
担当者	益田 信也、石田 聖一、森崎 浩							
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な建築設計プロセス(情報収集・計画課題と設計条件の設定・コンセプトの立案・形態決定・図面作成)を理解して、独自に遂行することができる。(A7,B6) ・他者と協調してグループワークを行うことができる。(B6) ・自分自身や他者が作成した図面・模型の整合性が照合でき、また評価できる。(A7,B6) ・図面・模型等と共にプレゼンテーション(高度な表現や説明)することができる。(A7,B6) 							
日程と内容	<p>09/16 第1回：導入講義：授業の進め方と概要の説明、成績評価の方法 ／課題1「オフィスビルの設計」の説明、資料収集・類例調査</p> <p>09/30 第2回：コンセプトの立案、ポリウム構成と全体計画</p> <p>10/07 第3回：コンセプトの発表とエスキス、構造計画と設備計画</p> <p>10/14 第4回：エスキスの展開・完成、エスキスレポート提出</p> <p>10/21 第5回：製図、図面の整合性の照合、講評</p> <p>10/28 第6回：課題1提出、プレゼンテーションと講評会</p> <p>11/04 第7回：課題2「建築ディテールの共同実測：階段」の説明、実測作業、製図</p> <p>11/11 第8回：課題2提出／課題3「幼稚園の設計」の説明、資料収集・類例調査</p> <p>11/18 第9回：コンセプトの立案、諸室構成と全体計画</p> <p>11/25 第10回：コンセプトの発表とエスキス、構造計画と設備計画</p> <p>12/02 第11回：エスキスの展開・完成、エスキスレポート提出</p> <p>12/09 第12回：製図、図面の整合性の照合、講評</p> <p>12/16 第13回：課題3提出／課題4「幼稚園の模型」・課題5「幼稚園の模型写真」の説明</p> <p>12/19 第14回：模型制作</p> <p>01/13 第15回：課題4および課題5提出／プレゼンテーションと講評会</p> <p>01/27 補習</p>							
成績評価基準	定期試験	0%	実技	0%	臨時試験	0%	部外評価	0%
	報告書・レポート	0%	プレゼンテーション	10%	課題	75%		
	演習	15%	計	100%				
授業到達目標の達成度	課題をすべて提出できた学生は、程度の差はあるものの到達目標を達成できたと判断している。程度の差は、計画コンセプト、空間構成、プレゼンテーションの魅力や精緻である。建築学のコア科目であり必修の演習科目(デザインコースは選択科目)であることから、全員合格をめざしているが、合格率は85%と、H26年の83%よりは向上しているが、まだまだである。							
反省点	昨年度に引き続き、成績報告の締切に余裕があり授業最終日の翌々週に補習授業を確保できたことが、作品のブラッシュアップにつながった。一方で、早々と、特に学園祭頃に、授業を放棄する学生や課題提出をあきらめる学生がいた。ほとんど毎週非常勤と共に放課後補習を実施し、どうにか8割を超えることができた。							
来年度の計画	授業内容については、旧カリキュラムの最終年にあたり、来年度は大幅な変更の予定はない。課題設定および配布物等で一部改善を図る予定である。							
授業評価アンケートに対するコメント	総合評価は8.5点はこれまでで最高の評価(H25年8.1点、H24年8.0点)であり、ほとんどの設問で全科目の平均値を上回っている。新規の非常勤1名の指導が優れていたこと、個別指導の進め方に受講生が1年間で慣れてきたこと、が主な原因と考えている。							
履修登録者数	67名	定期試験 受験者数	試験はしない	合格者数	57名	合格率	85%	